藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

「藤前干潟の漂着ゴミを減らす市民の活動」

中堤会場の参加者と応援にきたモリゾーとキッコロ(2011年春)

藤前干潟クリーン大作戦(以下、クリーン大作戦)は、毎年春と秋の2回、藤前干潟に漂着するごみを市民の皆さんによって清掃する活動です。2004年から実施し、2011年秋で15回目を迎え、近年は1,500人以上の方々に参加していただける大規模で継続的な活動となりました。

藤前干潟は伊勢湾最奥部に位置し、庄内川、新川、日光川の3河川が合流する河口にあります。渡り鳥などの野生生物の宝庫であることから、国指定鳥獣保護区であると同時に、ラムサール条約(※1)に登録された国際的にも重要な湿地です。また、干潟の生き物や野鳥の観察などができ、私たち人間が自然と触れ合える貴重な癒しの場所ともいえます。

しかし、藤前干潟には川の上流から運ばれてくるごみが大量に漂着します。不法投棄も絶えません。ゴミは景観を損なうだけでなく、生き物の生息環境を悪化させてしまいます。

この状況に危機感を抱いた4つの市民団体(現在は7団体が参加)が、「子供たちが安心して触れ合える岸辺・水辺を取り戻すこと」、「ラムサール条約登録湿地にふさわしい干潟にすること」を目標に掲げ、2004年に実行委員会を立ち上げ、地域の皆様、企業、行政機関と一緒にクリーン大作戦を実施することとなりました。

藤前会場でのごみ清掃の様子(2010年春)

クリーン大作戦実施以降、干潟のゴミは減っており活動の成果が現れています。

また、実行委員会では子供たちにごみの問題を伝えることが大切であると考え、ごみ拾い後に多治見市から応援に来てくれる中学生を中心に、水質調査や干潟での生き物観察会を開き、命の繋がりを楽しく感じてもらえる機会を設けています。この干潟との触れ合いが、自然環境に対する関心に繋がることを願っています。

漂着ゴミの問題は藤前干潟だけの問題ではなく、流域全体の問題です。今後も地元と行政機関との共同体制を大切にすると同時に、川の上・下流域、さらには伊勢湾全体との連携を図り、ごみを減らす活動の輪を広げていきたいと考えています。いつか、藤前干潟に拾うべきごみが無くなることを目指して。

(※1:正式名称「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約」)

矢並湿地保存会

～矢並湿地を守り育てる活動～

愛知県豊田市矢並町内に所在する矢並湿地は、ミカワシオガマをはじめ「東海丘陵要素植物」と呼ばれる東海地方でしか見られない貴重な湿地植物などが数多く自生している湿地です。

平成10年に豊田市で愛知県内の市町村による湿地サミットが開催され、矢並湿地の一般公開が行われたことをきっかけに、矢並町の住民による「矢並湿地保存会」が発足しました。

矢並湿地一般公開風景

保全作業風景

里地里山と同じく、矢並湿地も人が関わりあうことで湿地の植生が維持されてきました。保存会も貴重植物の群落維持のために、イノシシの侵入を防ぐ環境整備や湿地の富栄養化を防ぐ草刈りなどを定期的に実施しています。また観察会や周辺湿地の視察を行い、湿地の特性と湿地植物について楽しみながら学んでいます。

毎年、秋の草花が見頃を迎える時期に、地元の豊田市自然愛護協会とともに湿地を公開しており、1,000名を越える見学者を案内しています。

今後は、地元小学校との連携を深め、若い世代に自然保護の大切さを伝えていきます。